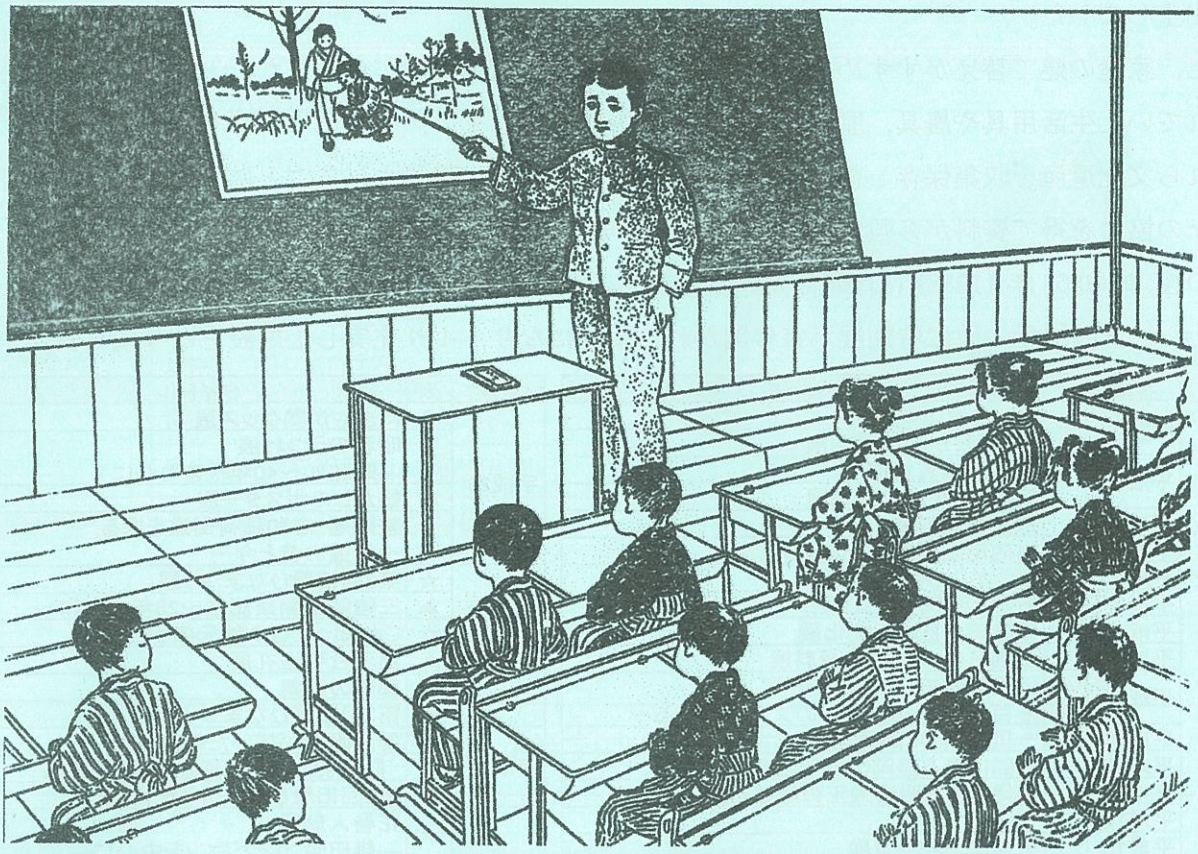
れきみん
となん歴民だより vol.60

Morioka tonan history and folklore museum　令和元年 10 月 31 日発行

発行　盛岡市都南歴史民俗資料館　盛岡市湯沢 1-1-38　Tel/Fax 019-638-7228



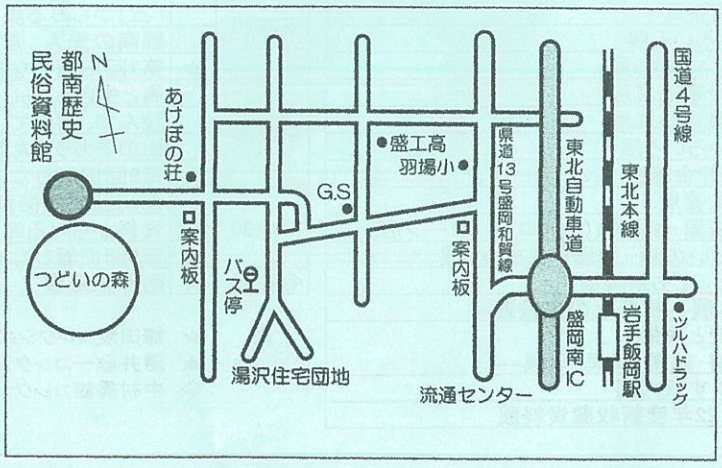
明治43年『尋常小学修身書　巻一　児童用』より

是非ご来館ください。お待ちしております。

— もくじ —

○都南歴民開館 40 周年
○企画展「都南の近代教育」のお知らせ
○かけはしの会通信
○資料は語る(60)
○盛岡市所在指定・登録文化財紹介(60)
○となんの先人③

MAP☆ACCESS



○利用案内

開館時間
午前９時から
午後４時まで

入館料
無　料

休館日
月曜日
（休日に当たるときは、直近の平日）、年末年始

都南歴史民俗資料館 開館40周年

盛岡市都南歴史民俗資料館は，令和元年８月で開館40周年を迎えました。

開館当時の都南地区は，盛岡市のベッドタウンとして急速に都市化がすすめられていました。人口が増加したため行われた土地開発に伴い，埋蔵文化財の発掘調査が行われました。三本柳の百目木（どめき）遺跡はショッピングセンター建設，西鹿渡（にしかど）遺跡は宅地造成のために用地の調査が行われ，貴重な遺物が出土しました。

また，家屋の建て替えがすすめられたこと，生活様式や風俗風習が変化したことにより，昔から使われていた生活用具や農具，歴史資料が不要物となってしまい，失われつつありました。

それら文化遺産を収集保存し後世に伝えるために，資料館が建設されることになりました。多くの方々の協力を得て資料が多数集められ，昭和54年（1979）８月１日に開館しました。

その後，昭和63年（1988）には新館が増築され，より多くの資料を収蔵できるようになりました。同年から，常設展示の他に特別展が毎年開かれるようになり，より充実した施設となりました。

昭和63年度以降の特別展・企画展等一覧

年度	※	タイトル
昭和63		大ヶ生金山資料展
		第1回我が家の宝物展
平成元		信仰関係資料展
		第2回我が家の宝物展
平成2		古文書資料展
平成3		村内出土埋蔵文化財展
平成4		なつかしの花巻人形展
平成5		石碑と庶民のくらし展
平成6		津志田の歴史と文化展
平成7		当国三十三所観音資料展
平成8		近代都南のくらしの文化展 ～百年前からのくらしの文化を訪ねる～
平成9		一里塚・名木が語るモリオカ
平成10		絵図に見る盛岡の歴史と風土展
平成11		記録された明治大正の地域の生活と文化
平成12		昔の旅
平成13		寄贈コレクション展
平成14		子どもの遊びの文化展
平成15		高村コレクション　浮世絵展
平成16		学びのあゆみ
平成17		土人形展
平成18	☆	懐かしのおもちゃ展 ―戦後のブリキおもちゃを中心に―
		運ぶ道具展
	☆	木作り菓子型展
平成19	☆	北東北のこけし展
	☆	木のおもちゃ展
		稲作と農機具
平成20	☆	ラジオいろいろ展
	☆	おもちゃいろいろ展
		匠の手仕事道具展
	☆	岩手の風物絵皿展
平成21	☆	歌留多いろいろ展
	☆	おもしろ貯金箱展
		収蔵古文書展
	☆	謎の陶磁器・柳模様（ウイローパターン）展
	☆	都南つどいの森　旧暦ひなまつり展
平成22	☆	弁当箱とこども茶碗展
	☆	消しゴム展―机の上の主役達―
		馬の歴史と民俗 ―古文書・絵馬・民具・玩具―
	▲	時代を映す双六展
		平成21・22年度新収蔵資料展
平成23	◇	にぎやか鶏グッズ展
	☆	昭和のうつわ展 ―昭和30～40年代を中心に
	▲	懐かしのポスター展
		盛岡藩・志和稲荷街道を探る ～街道の昔と今～
平成24	☆	第2回旧暦ひなまつり展
	▲	三陸鉄道開業記念～28年の軌跡～
	☆	これ知ってる？地元のうたっこ展
	▲	奥羽社寺巡礼展
		都南の剣舞
	☆	第3回旧暦ひなまつり展
平成25	☆	郷土画家が描いた絵葉書
	▲	『もりおか』路地裏の珍品・稀書展
	☆	第4回旧暦ひなまつり展
平成26	(☆)	花巻人形展 ―鎌田隆コレクションを中心に―
		戦時下の盛岡・都南
	(▲)	記憶にのこる盛岡・都南 ―澤井コレクションを中心に―
	☆	第5回旧暦ひなまつり展
平成27		飯岡・湯沢地区の遺跡を知る
	(☆)	目で見て楽しむ名所 ―鎌田コレクションを中心に―
		都南の社寺と人々
	☆	第6回旧暦ひなまつり展
平成28		岩手国体×都南
		「衣」からみる農家のくらし
		都南の先人　宮崎求馬
	☆	第7回旧暦ひなまつり展
平成29		馬と生きるくらし
		読んで、書いて、寺子屋で！
		山のチカラ　大萱生鉱山
	☆	第8回旧暦ひなまつり展
平成30		都南歴史民俗資料館新収蔵資料展
		資料からみる昭和のくらし
	☆	第9回旧暦ひなまつり展
令和元	☆	南部鉄器展

※　☆ 鎌田隆コレクション
　　▲ 澤井敬一コレクション
　　◇ 中村秀雄コレクション

企画展「都南の近代教育」開催のお知らせ

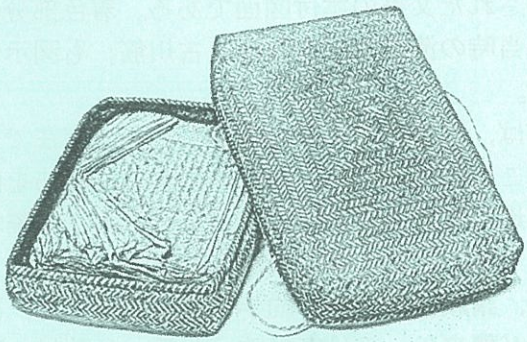
当館では，令和元年９月 28 日（土）から 12 月 15 日（日）まで，企画展「都南の近代教育」を開催しています。

明治という新しい時代を迎え，近代化を進める日本にとって，教育の普及は重要な施策のひとつでした。明治５年（1872）に学制が発布されると，翌年から全国各地に小学校が設立され始めました。ここ都南地区も例外ではなく，明治６年（1873）から次々と設けられ，幾度の分離独立や統廃合を経て現在の小中学校の基礎となっています。

本展では，盛岡市立見前小学校様，同飯岡小学校様，同都南東小学校様から貴重な資料をお借りし，都南地区の各学校の歴史を資料やパネルを通して紹介しています。また，明治期から昭和 20 年代の教科書を展示し，その移り変わりを追っています。

●借用展示資料

見前小学校	校歌原本（1929 年）
飯岡小学校	開校当時のかばん
	開校当時の机
	教科書（下飯岡小，羽場小）
都南東小学校	都南村立乙部小学校看板
	大萱生小学校校旗
	アルバム「都南東小建築のあゆみ」



かばんとして使用されていた行李（こうり）
（盛岡市立飯岡小学校蔵）

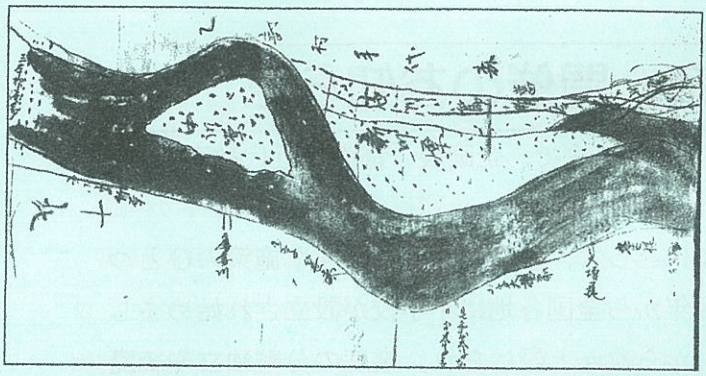
「となん・かけはしの会」通信

●茶話会（さわ）

今年度第二回茶話会は，７月 13 日（土）に「郷土の先人 宮崎求馬（もとめ）」と題して開催されました。講師には，求馬の調査研究を行った盛岡市先人記念館の学芸員をお招きしました。

求馬の，教育者や神職，私立図書館運営者としての幅広い業績や，その長男で盛岡八幡宮宮司などを務めた道郎の業績を，詳細な調査研究を基にわかりやすくお話しくださいました。また，県外から宮崎家の縁者の方がお越しになり，熱心に聞いておられました。地域に大きく貢献した知られざる先人の話に，会員の皆さんも深く感銘を受けたようです。この場をお借りし，講師の方に御礼申し上げます。

資料は語る60



明治30年3月の図

【請願書―北上川治水工事之儀ニ付願―】

上は，明治30年（1897）3月に見前村民より同村長へ提出された文書の添付図面である。着色部分は北上川の当時の流路で，上方に「古川筋」も図示されている。

北上川は，恩恵と同時に災害をもたらす存在でもあった。この前年に起きた数回の洪水は，堤防を破壊し，耕地や人家に大きな被害を及ぼした。本資料は，一刻も早い改修工事を嘆願する文書である。

しかし，請願書提出から約半年後の同年9月，再び大洪水が襲来し，手代森堤防は欠潰，見前村の護岸沈床は流失という甚大な被害を受けた。そのため，翌31年2月，乙部村と見前村は県知事に「北上川筋流身改修ノ儀ニ付願」を提出し，根本対策を求めた。こちらの文書にも流路図が添付されているが，30年3月の図と比較すると，短期間で流路が変わっており，洪水のすさまじさを見て取ることが出来る。

（明治31年2月の図は常設展で展示中）

盛岡市所在指定・登録文化財紹介60

市指定無形民俗文化財

黒川田植踊り

黒川地区に伝承される田植え踊りで，明治初期から小正月の時期を中心に踊られていましたが，明治40年（1907）を最後に中断されました。昭和43年（1968）に地元有志の手により復活し，盆や踊り初め，舘林神社祭典の際に上演・奉納されています。

田の耕作から収穫までの流れが，春田打ちや種蒔き，早乙女，早苗振り，秋仕舞などの演目で表現され，合間には地主の旦那様と田植作業の先導役である一八（いっぱち）の楽しいかけあいも見られます。早乙女達による中踊りや笠振りは特に華やかに演じられます。

参考文献：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』(2008)
盛岡市無形民俗文化財保存連絡協議会
『増補版 盛岡の民俗芸能』(2010)

となんの先人③ 大矢 半次郎

大矢半次郎は、明治二十五年（一八九二）一月九日、乙部村乙部の佐々木定吉の次男※として生まれた。

岩手県立盛岡中学校（現在の岩手県立盛岡第一高等学校）に入学し、乙部から、当時内丸にあった校舎まで約十キロメートルの道のりを下駄で歩いて通学したという逸話が残されている。加えて夏場には、朝に草刈りを終えてから学校に向かったという。

質実剛健の秀才で、旧制第一高等学校を経て大正七年（一九一八）に東京帝国大学法科大学独法科を卒業し、大蔵省に勤務した。この間、大正四年（一九一五）には五代目盛岡市長を務めた大矢馬太郎（のち再任、九代目も務めた）の養子として迎え入れられた。妻のサクは馬太郎の長女である。

大蔵省で税務監督局書記官、銀行検査官、大蔵書記官などを務めた後、昭和十二年（一九三七）に大蔵省主税局長、同十五年（一九四〇）に日本勧業銀行理事、同二十年（一九四五）に農林中央金庫副理事長となり、中央の要職にあって財政方面に貢献した。同十三年（一九三八）には松隈秀雄と共著で『支那事変特別税法等の解説』を著した。

昭和二十五年（一九五〇）には全国区より参議院議員選挙に立候補し当選、六年間国政に参画した。

同三十二年（一九五七）に税理士試験委員長、同三十七年（一九六二）に日本醸造協会長、ほか岩手県総合開発顧問などを務め、昭和五十二年（一九七七）十二月七日に八十五歳で逝去した。

※『人事興信録』には三男とある

参考文献：『都南村誌』（都南村誌編集委員会、一九七四）
『人事興信録』第十三版（人事興信所、一九四一）